

平成29年度入試制度の仕組み

出願

検査内容

選抜方法

前期選抜 2月1日(水)

志望する高等学校が事前に公表する「出願できる条件」を満たす生徒が出願できます。

- 学力検査
国,数,英の3教科(県共通問題)
- 学校独自検査
作文・面接・実技から1つ以上実施します。

A 調査書点
(225点満点)

B 学力検査点
(75~300点)

C 学校独自検査
(75~300点)

※学校によって、Cの検査内容やBやCの配点が異なります。

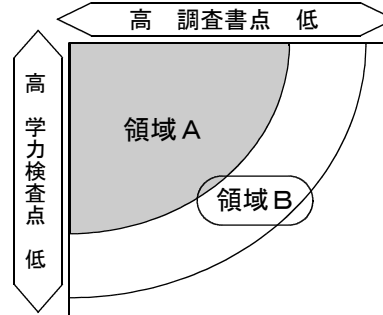
- 第1段階
A+B+Cの合計点上位の者について、調査書の記載事項も用いて選抜します。
- 第2段階
A+B+Cの合計点と調査書の記載事項を用いて、総合的に選抜します。

※ 募集定員を前期選抜と後期選抜に分けて選抜を行います。

後期選抜 3月8日(水)

前期選抜を受験していない生徒及び前期選抜で合格していない生徒が出願できます。

- 学力検査
国,社,数,理,英の5教科(県共通問題)
- 学校独自検査
学校によっては面接や実技を実施します。



※調査書点と学力検査点の重視の仕方が、学校ごとに異なります。

- 第1段階
調査書点と学力検査点の相関図を用いて、領域Aから調査書の記載事項も用いて選抜します。
- 第2段階
領域Bから調査書の記載事項を用いて、総合的に選抜します。

第二次募集 3月22日(水)

前期選抜及び後期選抜のいずれにも合格していない生徒が出願できます。

- 作文, 面接, 実技, 学力検査のいずれか1つ以上実施する場合があります。

調査書のみ, または調査書に上記の検査を加えて総合的に選抜します。

※ 募集定員に満たない学校で実施します。

留意事項

1 「募集定員」、「募集割合」及び各選抜の「募集人数」の欄

平成29年度宮城県公立高等学校入学者選抜の募集定員は、平成28年7月に公表されたものです。

中学校を併設している高校（仙台二華高校、古川黎明高校）の定員及び連携型選抜を実施する高校（志津川高校）の定員については、中学校から進学する生徒を含めています。

2 「前期選抜」の「出願できる条件」の欄

(1) 「出願できる条件」

ア 「資格確認の対象とする条件」

文末に【調査書】又は【添付書類又は調査書】のマークが付いている条件です。

この条件では、志願者が条件を満たしていることを、調査書の記載内容や「志願理由書」に添付する書類（証明書類の写し）により証明することが必要となります。

これらの書類等により、高校では条件を満たしているか否かを確認します。

イ ア以外の条件（「資格確認の対象としない条件」）

志願者本人が、自分は「どのような点でこの条件に該当しているのか」を「志願理由書」に記載し、自己アピールします。

(2) 記載内容の留意点

ア 「各教科の学習成績」

評定の平均値が示されている場合の算出方法は、該当するすべての評定の和を該当する教科数で除した数値を小数点第2位で四捨五入したものです。

例 「中学校1～3年生の全教科の評定平均値」

$$= \frac{\text{（中学校1～3年生のすべての教科の評定の和）}}{\text{（中学校1～3年生のすべての教科数（27））}}$$

※ 中学校3年生の評定は出願時点のものを用います。

イ 「スポーツ・文化の大会成績やボランティア活動等」

高校の指示が特にない場合は、中学校3年間で一度でも経験すれば、条件を満たしていることとします。また、運動部での県大会出場とは、県大会に選手として登録された者、という意味です。いずれの場合も、中学校での活動実績があることを前提とします。

ウ 「取得資格」

「英検」は「日本英語検定協会主催実用英語技能検定」、「漢検」は「日本漢字能力検定協会主催日本漢字能力検定」、「数学検定」は「日本数学検定協会主催実用数学技能検定」の略です。

「数学検定」3級以上などで、1次試験と2次試験の別がある場合には、両方とも合格している必要があります。

3 「前期選抜」の「配点」の「学校独自検査」の欄

作文の種類、面接の種類、実技の種類と時間を記載しています。

(1) 「作文」

各高校で実施予定の「作文」「小論文」の別を記載しています。

◆ 「作文」

身近で親しみやすい題材をもとに（自由に書かせることを含む。）文章を作成させる検査

◆ 「小論文」

資料を与え、その全体又は一部について問い、受験生のものの見方や考え方等をみる、より論理性を重視した検査
文章読取型 資料読取型 情報読取型 の3種類

(2) 「面接」

各高校で実施予定の「個人面接」「集団面接」「自己表現」の別を記載しています。

4 「後期選抜」の「調査書：学力検査」の欄

調査書と学力検査の結果のどちらをより重視して選抜を行うのかを記載しています。

◆ 例えば、「学力検査を重視する」とした場合、「4：6」より「3：7」の方が、学力検査の結果がより重視されます。

5 その他

(1) 平成29年度宮城県公立高等学校入学者選抜要項は平成28年10月に公表する予定です。

(2) 平成29年度入試における「出願できる条件」の内容は原則として今後変更しません。

(3) 公立高等学校入学者選抜においては、入学を希望する者が出願することを前提としていますので、前期選抜における「出願できる条件」に、入学の確約を求めるような条件は、改めて記載していません。また、合格者は、それ以降の公立高校の入学者選抜に出願することはできません。

入学者選抜一覧表の見方

学校番号	学校名	学科(コース・部)	募集定員(人)	前期選抜														後期選抜				備考 社会人 特別 選抜								
				募集割合	募集人数(人)	③ 「出願できる条件」 ※ 前期選抜における各高校の出願資格です。	④ 調査書	⑤ 学力検査					⑥ 学校独自検査					⑦ 第1段階の割合	募集人数(人)予定	⑩ 選抜資料			⑪ 調査書 学力検査	第2志望とすることができる学科						
								⑧ 合計		作文		面接		実技		教科	倍率			面接・実技										
								小計	配点	時間	形式	配点	時間	形式	配点					時間	形式				面接	実技				
○	青葉	工業科	120	40%	48	工学に関する分野に強い興味を持ち、将来専門的知識と技能を生かした就職や上級学校への進学を目指す者で、次の1～5のうち、1つ以上の条件を満たしていること。 1 中学校1～3年の英語または数学の評定平均値が4.0以上である者【調査書】 2 英検または数学検定において3級以上の資格を取得した者【添付書類又は調査書】 3 中学校体育連盟主催の大会で県大会に出場した者【調査書】 4 文化的活動で全国大会で入賞した者【添付書類又は調査書】 5 ボランティア活動や社会的な活動で中心的な役割を果たしたことを自己アピールできる者	225	100	100	100	300	75	50分	小論文(文章読取型)	50	15分	個人面接			125	650	約80%	72	数学と英語	各1.5			3:7	建築科 土木科	⑬

○基本情報

① 学科(コース・部)

高校によっては、複数の学科があります。学科(コース・部)などによって学ぶ内容も異なり、③に示す「出願できる条件」が違ってきます。定時制課程では、学ぶ時間の違いにより部として分けがあります。

◆普通科

学習の中心が共通教科におかれており、幅広い教養を身に付けることをねらいとしています。

◆専門学科

それぞれの学科に関する専門的な知識・技術を身に付けることをねらいとしています。これらの学科はさらに小学科に分かれていることがあります。

【農業・工業・商業・水産・家庭・看護・福祉に関する学科】

【理数・英語・体育・美術に関する学科】

★災害科学科<平成28年度開設>

全国で2番目となる防災系専門学科。普通科の学習内容とほぼ同じですが、専門科目では過去の災害や環境から見出される諸課題を学習教材とする学科です。

◆総合学科

普通科と専門学科の両方の性格を持ち、自分の進路や興味・関心に応じて多くの科目を選択できる学科です

○前期選抜

② 前期選抜の募集割合と募集人数

募集割合（％）の上限は学科によって異なります。

- ◆普通科 : 10～30%
- ◆普通科コース制, 専門学科(体育, 美術を除く), 総合学科 : 10～40%
- ◆体育及び美術に関する学科 : 10～70%

③ 出願できる条件

各高校が示す「出願できる条件」を満たす場合のみ出願できます。条件には【調査書】:「調査書に記載してもらうもの」, 【添付書類又は調査書】:「成績・資格等を証明する書類を添付又は調査書に記載してもらうもの」, 【 】の記述なし:「志願理由書に自分で記載するもの」があります。条件に関しては「全ての条件を満たす」必要がある場合や、例えば「1つ以上の条件を満たす」ことが必要な場合などがあります。

【 】の内容	【 】が示していること
【調査書】	中学校から高校へ出される調査書で確認を行う条件
【添付書類又は調査書】	資格や成績などの書類の写しを添付するか, 中学校から出される調査書で確認を行う条件
【 】がついていないとき	志願理由書で満たしている項目について自己アピールする条件

④ 調査書

(3年間の3教科[国・数・英]の評定値の合計) + 2 × (3年間の3教科以外の評定値の合計) の225点満点です。

⑤ 学力検査

学力検査は国語, 数学, 英語の3教科。満点は学校毎に定め, 75～300点になります。傾斜配点(ある教科の点数を1.5または2.0倍する)を行った場合にも学力検査の点数は300点以内に換算します。

⑥ 学校独自検査

作文, 面接, 実技のうち少なくとも一つを実施します。学校独自検査の満点は学校毎に定め, 75～300点になります。

⑦ ④+⑤+⑥の点数の合計は450～675点の間で学校毎に異なります。

・④調査書点	225点
・⑤学力検査点	75～300点
・⑥学校独自検査点	75～300点

⑧ 第1段階の割合

前期選抜では2段階に分けて選抜します。⑧の表示は, 第1段階で, 合計点の上位の者から調査書記載事項も用いて審査し, 総合的に合格候補者を決定する割合です。第2段階では, 第1段階の合格候補者を除いたものを対象に, 合計点と調査書の記載内容とを総合的に審査し, 選抜します。

○後期選抜

⑨ 後期選抜の募集人数(予定)

募集人数は募集定員から前期選抜等での合格者を引いた人数になります。前期選抜合格発表日に確定する人数です。

⑩ 選抜資料

学校, 学科の特色を踏まえて, 2教科まで傾斜配点する学校があります。また, 面接・実技を行う学校もあります。

⑪ (調査書): (学力検査)

調査書は(3年間の5教科[国・社・数・理・英]の評定値の合計) + 2 × (3年間の5教科以外の評定値の合計) の195点満点です。

調査書と学力検査の重視の仕方は各高校によって異なります。

- ・調査書重視型(7:3又は6:4)
- ・同等型(5:5)
- ・学力検査重視型(3:7又は4:6)

第1段階で約80%の合格候補者を相関図と調査書から総合的に決定し, 残りの合格候補者は調査書記載事項をさらに詳しく検討する総合的な審査で決定します。

⑫ 第2志望とすることができる学科

複数の学科・コース・部を併置している高校にあつては, 出願時に他の学科・コース・部を第2志望とすることを認めている学校があります。

○備考

⑬ 社会人特別選抜

定時制課程において実施する学校があります。

○第二次募集

第二次募集は, 後期選抜の合格発表が終了した時点で, 合格者数等の計が募集定員に満たない学科, コース・部で, 3月22日に行われます。検査内容等については, 後期選抜合格発表後に公表します。

